

卒業論文の要旨

論文題目	『源氏物語』における浮舟の性質からみる両親の面影
氏名	神崎恵
メジャー	日本語日本文学
<p>本論文は、『源氏物語』の宇治十帖における主要人物である浮舟の、人物像や境遇を分析し、そこから見出すことができる性質と、彼女の両親それぞれの人物像や境遇から、見出すことのできる性質の共通点を論ずるものである。</p> <p>これまで、各研究分野で、浮舟の人物像というものは指摘されてきた部分であり、特に、彼女が物語上で”誰かの代わり”として表されることを示す「形代性」という言葉は、多くの論文で語られてきた。しかし、この性質が浮舟の両親に由来していると仮定した上で、浮舟と両親の性格的性質の共通点を分析するという試みは、未だ行われてきたことはない。</p> <p>従って、ここでは、浮舟の人物像、境遇を「人形(形代的な性質)」と「空虚な性質」の二つに分類し、そこからそれぞれの性質を、浮舟の両親と重ね合わせ、分析することで、共通部分を明らかにする。</p> <p>本論文は全四章に分類される章で構成されている。第一章では、本論における『源氏物語』の扱いについて触れる。第二章からは、浮舟の「人形(形代的な性質)」を解説する。『源氏物語』から、浮舟の人物像や境遇について言及されている部分を引用し、上記の性質に該当するかを分析し、この性質が浮舟の母・中将の君にも共通するものとして論じていく。第三章では、「人形(形代的な性質)」の同様、浮舟に言及されている部分を引用し、「空虚な性質」と分類していく。さらに、この性質と、浮舟の父・八の宮との共通性を論じる。第四章では、これまで述べてきたことを総括しながら、浮舟と両親の性質が共通することの意味や、これが浮舟の入水にも影響を与えるほど、物語上で重要なものであると考察していく。</p>	
<p>(指導教員の推薦のコメント)</p> <p>当該論考は、『源氏物語』宇治十帖における浮舟について、「形代」「空虚」という2つの側面から分析し、浮舟の母である中将の君、父である八の宮との共通性を見出し、浮舟が入水にいたるまでの運命性を論じたものである。従来の解釈も、浮舟の物語を理解する上で「形代的な性質」が重要であることは指摘してきたものの、著者は、浮舟の薫と匂宮の間での立ち位置を浮舟の父母の姿と丁寧と比較することで、より浮舟の形代的な運命を際立たせている。その上で著者は、浮舟にとって入水こそが形代としての人生から逃れる手段だったのだと主張する。このような解釈を通じて、宇治十帖における浮舟の物語を、『源氏物語』全体の中に緊密に位置づけることに成功している。</p> <p>以上に鑑み、当該論文は優秀論文として推薦するに値する。(田中一孝)</p>	